

# さわどい 埼玉

## 第21回総会・講演会開催

去る7月17日(水)、埼玉・タイ王国友好協会の第21回総会・講演会が川越東武ホテルで開催され、当日は会員等約80名の出席がありました。

今回の総会では、2018年度事業報告および収支報告、2019年度事業計画(案)および収支予算(案)、役員改選(案)が上程され、いずれも全会一致で承認されました。

2018年度事業報告では、日タイ修好130周年記念事業の継続として電気のない村の通学路への太陽電池式街灯設置や、協会設立20周年記念事業として山岳地域での水道新設事業などについて報告しました。

また、2019年度事業計画では、130周年記念事業の継続として太陽電池式街灯設置を行うほか、人材育成支援として、引き続き大学生や高校生への奨学支援資金授与を行うことが承認されました。総会後には、バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使に「Thailand-Japan: The Way Forward (タイー日本：今後の展望)」という演目で講演いただきました。(2面参照)講演では新政権のもとでタイと日本の友好協力関係が今後も継続していくこと等が述べられました。また、今年度中に大使の任期満了を迎えるとのご紹介があり、当協会が今まで取り組んできた教育関連施設の建設やインフラ整備等の支援に対し、感謝の意も述べられました。

今回の総会・講演会には、タイ大使館から大使閣下をはじめ一等書記官、内務省オフィサー、職員1名、公務員研修生2名と多くの皆様にご出席いただきました。総会・講演会終了後の懇親会では、タイの料理やビールを召し上がりながら、大使館や協会会員の皆様方が懇親を深められました。



▲総会の様子



▲懇親会で自己紹介するアジャリー・ウオンワン一等書記官



▲バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使と原会長

### 第21回総会 会長挨拶



会長  
原 敏成

本日は大変お忙しいところ埼玉・タイ王国友好協会の総会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、当協会の事業活動への皆様のご理解・ご支援に對しまして厚く御礼申し上げます。

昨年度はタイ王国への協力支援としてインフラ整備事業に力を入れてまいりました。日タイ修好130周年記念事業の継続として、電気のない村の通学路へ太陽電池式街灯を設置したほか、協会設立20周年記念事業として、山岳地域に太陽電池式給水ポンプによる水道設備を新設しました。また、協会設立20周年の記念品として、現地中学生による手作りのコースターを製作しました。今後も支援のニーズ調査を実施しながら、当協会として何ができるか検討し、実行してまいります。

また、大使閣下におかれましては、2016年の赴任以来当協会に對しまして特別なご配慮をいただき、今回で4回目の貴重なご講演をいただき、大変感謝申し上げます。大使閣下の永年にわたるご功績に敬意を表しますとともに、今後益々のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

最後に、皆様方の常日頃のご支援・ご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後とも埼玉県とタイ王国の友好関係がますます進展しますよう、あらためてご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

# バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全權大使のご講演

## 「Thailand-Japan: The Way Forward (タイー日本：今後の展望)」 (抜粋)



▲講演するバンサーン・ブンナーク  
駐日タイ王国特命全權大使

本日は皆様にも再びお会いすることができ、大変うれしく思っております。埼玉・タイ王国友好協会の総会で講演者としてご招待いただくのは、今回が4度目となります。

まず今年、日本にとってもタイにとっても、特別な年となりました。日本が令和という新しい時代を迎えたことにお祝い申し上げます。また、5月にタイは、新国王ラーマー10世の戴冠式を終えました。両国がお互いの関係をさらに一層強化できる機会となる新しい時代を迎えました。

この機会にタイ王国の政治と経済の発展について、少し述べさせていただきます。

タイ王国では3月に選挙が行われ、首相の就任後、7月10日に内閣が結成されました。タイの政治的な安定は、両国の経済にとって大変良い結果をもたらします。

6月末には首相がG20大阪サ

は131億800万ドルで、タイは日本の海外投資国で8位でした。このことからタイ投資家も日本から良好な支援を受けていることが分かります。

観光については、2018年は日本がタイ人の観光地として第1位となり、タイから日本への観光者は113万人となっています。一方、日本からタイへの観光者は160万人と毎年増え続けています。10月にはタイ航空がバンコクー仙台線を週3便運航します。この就航は、両国の観光者数を増やす効果となり、さらに地域と地域を結びこ

とで経済効果を生み出します。東部経済回廊(EEC)は、Thailand 4.0政策に向けて推進していく具体的な事業です。現在、この事業は政策の施行と、土地開発の両方が継続的に進められてきました。タイ王国大使館とタイ王国関係チームは、METIとの協力で、2017年9月にEEC特別区へ600人以上の日本の投資家とメディアを案内し、さらにEEC事務局と関係機関の後押しもあり、EEC特別区への日本投資家の数は、半分以上を占めています。

EECは、タイが東南アジアとメコン川流域の中心となる可能性を示す、重要なハイライトです。日本は、両国が前進していく上で重要な役割を担っています。今年、タイが日本に協力と投資を呼びかけた産業は、1. 航空産業、2. 機材及び医療機器産業、3. デジタル産業、4. ロボット産業です。

来年、埼玉県越市はタイの空手選手のオリンピックに向けてた合宿所となります。この機会に、更に協力関係を深めていくために話し合えることを期待しています。

貴協会は、タイ北部の貧しい山岳民族の子供たちへの教育支援や、タイの地方の道路への街灯設置など、今までタイのために目覚ましい活動に取り組んできてくれました。協会のすばらしさと社会貢献は、今年の「第52回社会貢献者表彰」受賞ではつきりと示されています。この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。

最後に、タイ政府は日本の地域との連携強化を大変重要視していることを重ねて申し上げます。埼玉・タイ王国友好協会をはじめとした日本の各地とタイとの友好協会は、支援を進めて行く上で重要な機関となっております。タイと日本の協力関係を推進する牽引力となっています。

本年度は、私にとって日本での最後の任期の年となりました。貴協会の皆様には、今までタイ王国大使館と我々タイチームをご支援頂いたことに心より感謝申し上げます。日本の皆様と共に仕事をしてきた4年間、私と大使館に対しての友情や協力に感謝申し上げます。ここにいらっしゃる皆様は「タイの友人であり私の友人」であります。もし私が支援できることがあれば、喜んで精一杯支援いたします。今後皆様とお会いできる日を楽しみにしています。ありがとうございます。

## 役員紹介

総会審議の結果、次の方々役員に就任されました。(敬称略)

### ▽顧問

山口 泰明 衆議院議員  
土屋 品子 衆議院議員

### ▽会長

原 敏成 代表取締役社長  
武州ガス(株)

### ▽副会長

利根 忠博 埼玉経済同友会 特別幹事  
佐伯 鋼兵 埼玉県商工会議所連合会 会長

### ▽幹事

吉原 浩行(新任) 本田技研工業(株)埼玉製作所 生産本部 生産業務部長  
前島 静顕 医療法人顕正会 会長  
細沼 哲夫 日本伸管(株) 代表取締役会長  
藤池 誠治 (株)デサン 代表取締役会長

### ▽監事

大塚 雅寛 (株)丸広百貨店 執行役員総務部長  
関根 勇治 初雁興業(株) 代表取締役社長

### ▽監査役

島村 健 (株)島村工業 代表取締役社長

### ▽代表取締役社長

吉野 寛治 吉野電化工業(株) 代表取締役社長  
長尾 美津子 ガールスカウト埼玉県連盟

### ▽代表取締役社長

小嶋 一晃 (株)テレビ埼玉 監査役

### ▽代表取締役社長

大塚 雅寛 (株)丸広百貨店 執行役員総務部長

### ▽代表取締役社長

関根 勇治 初雁興業(株) 代表取締役社長



# 社会貢献者表彰受賞

当協会はこの度、埼玉県民生活部国際課様のご推薦をいただき、公益財団法人社会貢献支援財団による社会貢献者表彰を受賞しました。

社会貢献者表彰は国の内外を問わず社会に貢献し顕著な功績を挙げている個人や団体を表彰し、よりよい社会づくりに資することを目的としています。当協会がこれまで取り組んできた友好親善事業への協力や人材育成支援といった民間ベースでの「草の根外交」が評価され、また多くの皆様のご支援があり、このような栄えある賞を受賞することができました。

7月22日(月)には受賞者を招いての「第52回社会貢献者表彰式典」が帝国ホテル東京にて開催され、当協会からは原会長、萩原事務局長、小高事務局員の3



▲(公財)社会貢献支援財団 安倍昭恵会長と原会長

名が出席しました。式典後の祝賀会では他の受賞者の皆さんと交流を深めることができ、大変貴重な機会となりました。

当協会が設立20周年を迎えるこの節目の年に社会貢献者表彰を受賞することができ、大変光栄に思っています。ご推薦とご選考をいただいた方々をはじめ、当協会を支えていただいている皆様に改めて感謝の意を表します。この度の受賞を機に、当協



▲社会貢献者表彰状



▲表彰状授与の様子

会ではさらに草の根外交に力を尽くす所存です。現地でのニーズを調査しながら、当協会としてどのような支援ができるか検討し、効果的な事業を実行していきたいと考えています。



▲受賞者の皆さんとの集合写真



▲祝賀会の様子  
埼玉県民生活部国際課 和田課長(左から2番目)  
原会長(中央)、同国際課 濱田主幹(右側)

# 学生への奨学金支援と報告

当協会では2016年より学生への奨学金支援金授与を行っており、今年で4期目を迎えます。第1期支援生徒2名、第2期支援生徒3名、第3期支援生徒2名に加え、総会での承認を受け、第4期支援生徒として新たに2名が対象となり、計9名へ奨学金支援金を授与することが決定しました。

今回新たに支援を開始した第4期支援生徒のナタン・ヨートカさん、ヨサボン・ダンワナシーさんとは、協会初の試みとして2019年2月26日(火)にスカイプによる面接を実施しました。面接の際に2人は「両親の期待に添えるためにも一生懸命勉強に励みたい」と意気込んでいましたが、その言葉どおり、チャリットラット高等学校に入学し、親元を離れ寮生活を送りながら、真面目に勉学に励んでいるとのこと。

また、第1期支援生徒2名は今年の6月に国立ラチャバット大学へと進学し、当協会が奨学金支援を開始して以来、初めての大学生が誕生しました。当協会では2人が立派な教師・教育者になるための後押しとなるよう、引き続き支援していきたいと考えております。

2019年9月、当協会会員で現地滞在者である堀田様に生徒が在籍する各校を訪問していただき、各校校長や職員らの立ち会いのもと、支援決定通知書および奨学金支援金を渡していただきました。堀田様からは生徒の皆さんは自覚を持って一生懸命勉強しているとの報告がありました。当協会としても、将来生徒の皆さんがタイ北部地域で教育者として立派に成長してくれることを期待しています。

## 【第4期支援生徒の2人】



▲ナタン・ヨートカオさん(右から2番目)とヨサボン・ダンワナシーさん(左から2番目)

## 【大学合格を喜ぶ第1期支援生徒とご家族の皆さん】



▲ボンラダー・バヤボンさん(真ん中) ▲シリヤー・ノイムンさん(右から2番目)



# 埼玉ータイ光リレー

2017年より日タイ修好130周年記念事業として始動した『埼玉ータイ光リレー』は、電気のない村の通学路へ太陽電池式街灯を寄贈する支援事業です。村から村へ光のバトンを繋げていきたいという思いから『光リレー』と名付けられました。

第1回目の2017年はランブーン県メーター郡ホワイホーム・ノーク村の通学路へ5基寄贈し、第2回目の昨年は同郡のホワイホーム・ナイ村の通学路へ5基寄贈しました。

第3回目となる2019年度は孤立村であるクンコン村への寄贈が決定しました。クンコン村には太陽光パネル・電池・インバーターが一体となったリチウム電池式の新型太陽電池式街灯の導入を予定しています。新型は従来よりも安く軽量で工事が簡単のため同一予算内でより多くの街灯が設置でき、クンコン村には10基寄贈することに なっています。

今後も総会の承認を得ながら、光のバトンを繋げていきたいと考えています。



▲新型太陽電池式街灯

## 第20回

# タイ・フェスティバル2019



▲開会式の様子

タイ王国大使館主催「第20回 タイ・フェスティバル2019」が今年も2019年5月11日(土)、5月12日(日)の両日、東京・代々木公園イベント広場で開催されました。「タイ・フェスティバル」は2000年に「タイ・フードフェスティバル」として開催され、タイ関連で日本国内最大級の食・文化イベントに成長しました。当協会の原会長も大使館より開会式へ招待を受け、事務局とともに出席しました。

開会式ではドーン・ポラマツトウイナイ外務大臣が挨拶され、日本側からは宮腰光寛内閣府特命担当大臣や鈴木憲和外務大臣政務官外がご臨席されました。開会式後、原会長はドーン・ポラマツトウイナイ外務大臣およびバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全權大使と面会し、交流を深めました。



▲(左より)ドーン・ポラマツトウイナイ外務大臣、原会長、バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全權大使



▲会場の様子

また、会場内ではタイの料理や文化を紹介したお馴染みの人気ブースに加え、OTOP (オートトップ) Land ブースが開設されていました。OTOP (オートトップ)とはタイ政府がすすめる「1村1品運動」のことです。タイ全土77県7,000以上の村が登録し、高い品質管理のもと、伝統文化を生かしながら、その土地の原材料や資源を用いた特産品を1村につき1種類作っています。ブースではタイの高品質な製品が展示販売されたほか、景品付きのスタンプラリーも行われていました。

## ダルニー奨学金 本年度の授与者

本年度の新規授与者は、次の3名です(年間1人14,400円で3年間)。

ダルニー奨学金は、経済的貧困のため、教育の機会に恵まれないタイ・ラオス・ベトナムなどの子どもたちの中学生就学を支援する国際教育里親システムです。



スカナイ・レックプラコーン 13歳



ヤモンパン・カニツト 13歳



ラッチャポーン・インタナタット 13歳

### 編集後記

かつて教育施設を支援したメンバー幼小中学校の生徒が、第1期奨学生として支援の結果、大学生になりました。協会の人材育成の成果として、北部地域の教育者が誕生するのが楽しみです。(H)

社会貢献者表彰式典に同行し、日本各地には様々なボランティア活動を行っている団体がある中で、今回の受賞があらためて光栄なことと感じました。(O)

## 埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

・会員増強にお役立て下さい

## 集 募 員 会

年会費 法人会員 2万円 個人会員 2千円 問い合わせ TEL:049-247-5428 FAX:049-246-2118 (武州ガス(株)内)